

長野大学紀要

第37巻第2号（通巻第135号）

長野大学

2015年12月

目 次

〈研究ノート〉

日本語と英語の違いを意識した英語学習

—語順、時制を中心に—

.....佐藤 秀樹..... 1

〈2014年度長野大学研究助成金による研究報告〉

(準備研究)

有機農業運動の多系的発展モデル構築に向けた社会学的研究

.....相川 陽一..... 13

家庭養護におけるケア提供者支援に関する研究

—フォスタリングチェンジ・プログラムの日本導入へ向けて—

.....上鹿渡 和宏..... 15

若者の労働と安倍政権の雇用政策の検討

.....京谷 栄二..... 17

通常学級における発達障害児へのICI等を活用した支援に関する研究

—包括的な学校支援システム構築における実際的研究—

.....杉浦 徹..... 19

満州事変の歴史的 성격に関する総合的研究

.....塚瀬 進..... 21

(基礎研究)

自己有能感に注目した就業力の測定

.....河野良治..... 23

人の肌の数値生体モデルの構築と光反射特性の解析

.....田中法博..... 25

2014 年度 長野大学研究助成金による研究一覧

区分	研究者	テ ー マ
準備 研究	1 相川 陽一	有機農業運動の多系的発展モデル構築に向けた社会学的研究
	2 上鹿渡 和宏	家庭養護におけるケア提供者支援に関する研究 —フォスタリングチェンジ・プログラムの日本導入へ向けて—
	3 京谷 栄二	若者の労働と安倍政権の雇用政策の検討
	4 杉浦 徹	通常学級における発達障害児へのICT等を活用した支援に関する研究 —包括的な学校支援システム構築における実際研究—
	5 塚瀬 進	満洲事変の歴史的 성격に関する総合的研究
基礎 研究	1 河野 良治	自己有能感に注目した就業力の測定
	2 田中 法博	人の肌の数値生体モデルの構築と光反射特性の解析

長野大学紀要編集規程

(名称及び発行)

第1条 本誌を「長野大学紀要」(以下「本紀要」という。)と称し、年4回発行することを原則とする。

(目的)

第2条 長野大学において教員が行っている研究および本学で実施された共同研究や受託研究の成果を学内外に紹介し、長野大学の教育・研究活動の活成化に寄与することを目的とする。

(編集委員会)

第3条 長野大学図書館運営委員会のもとに、長野大学紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)を置く。編集委員会委員長は図書館運営委員会委員長が兼ねる。

2. 本紀要の原稿の募集・編集は編集委員が行う。

(投稿資格)

第4条 投稿できる者は原則として本学の専任教員および実習助手とする。ただし、本学の非常勤講師等も投稿することができる。

(投稿原稿)

第5条 本紀要に掲載する原稿は他に未発表のものに限り、種類は次の号に掲げるものとする。

- (1) 論文
- (2) 研究ノート
- (3) 書評
- (4) その他の編集委員会の認めたもの

(著作権)

第6条 本紀要に体裁された論文等の著作権の取り扱いは、以下のとおりとする。

- (1) 著作権は著者に帰属する。
- (2) 著者は著作物の複製権と公衆送信権の行使を大学に委託する。

(論文等のネットワークでの公開)

第7条 本紀要に掲載された論文等は、原則として電子化し、長野大学ホームページ等を通じてネットワーク上に公開する。

(配布)

第8条 発行された紀要は専任教員、実習助手および非常勤講師等へ配布する。

(抜刷)

第9条 執筆者には抜刷50部を配布する。ただし、50部をこえる分については執筆者がその費用を負担するものとする。

(執筆要領)

第10条 原稿は別に定める執筆要領にしたがうこととする。

(改廃)

第11条 この規則の改廃は、全学教授会の承認を得なければならない。

附則

本規程は平成5年7月1日から施行する。

本規程は平成17年4月1日から施行する。

本規程は平成23年4月1日から施行する。

編集委員会

委員長 京谷 栄二

委員 片山優美子, 高木 潤野, 高橋 一秋, 高橋 大輔

田中 法博, 塚瀬 進, 望月 宏祐

2015年12月20日 発行

長野大学紀要 第37巻第2号(通巻第135号)

編集 長野大学紀要編集委員会

発行所 長野大学

長野県上田市下之郷 658-1

TEL (0268) 39-0005

印刷 田口印刷株式会社

上田市殿城 425-1

TEL (0268) 22-0680

BULLETIN OF NAGANO UNIVERSITY

Vol. 37, No. 2 , December 2015

CONTENTS

Research Notes

Toward Better Understanding of English for Japanese Learners through Awareness of Differences
between the Two Languages

Hideki SATO 1